

監修：塩原哲夫

皮膚科の似たもの同士

目でみる鑑別診断

書評者：宮地良樹(京都大学大学院医学研究科教授・皮膚科学)

皮膚科医の臨床診断は「肉眼で見る画像診断」である。皮膚症状を一瞥して、瞬時に発疹の性状をパターン認識し、いくつかの鑑別診断をあげる手法であり、画像診断医がX線写真やCTを読影したり、病理診断医が病理組織を読み解いたりするのと同じである。実際の診療現場では発疹に触れることができるので、色調、浸潤の有無、熱感や圧痛、悪臭や捻髪音までまさに五感を駆使した(味覚は駆使できないが)追加情報を得ることができる。その段階で少なくとも3つ以上の鑑別診断を挙げることができるかどうかが皮膚科診断の力量を示す指標となる。最近の臨床医はすぐに血液検査や機器診断に飛躍するが、皮膚からの一次情報ほど貴重なものはない。医療機器や採血ができなくても自らの肉眼で臨床診断のかかなりの領域まで到達できるのが皮膚科医の醍醐味であり、逆に皮膚科医が凜として矜持すべき自負である。

次に問診や検査情報から、上記の鑑別疾患を仕分けしていく作業が行われる。鑑別に必要な要点を簡潔に要領よく選別することで、自ずと確定診断に限りなく近づく

のである。ここまでで多くの臨床診断は完結するが、悪性腫瘍や鑑別に難渋する場合には皮膚生検で得られた皮膚病理所見により、自分の臨床診断を確認あるいは確信することが可能となる。皮膚科医は初診患者を診るたびに、この作業を不断に行うわけであり、豊富な経験と知識に裏付けされた仕分け作業こそが皮膚診断学の真髄であろう。「八卦見」と違うのは、単なる印象ではなく誰でも说得できるだけの根拠をもって診断思考過程の説明が可能な点であろう。

本書はまさにその診断思考過程を「似たもの同士」の症例を呈示し、緻密かつ合理的に解説することで臨床トレーニングに資することを目的としたきわめて斬新な好著である。塩原教授というサイエンスのわかる皮膚科学会屈指の臨床皮膚科医が、理詰めの謎解き指南役を演じているのがまた読者の知的好奇心をくすぐり、読了後の科学的満足感を倍増している。『アドバイス』では絶妙な鑑別のヒントを提示し、『Dr. 塩原の眼』では、physician scientistである塩原教授の面目躍如たるスパイスのきいたコメントが惜しげもなく

披露されている。ここに、議論好き少年がそのまま成人して皮膚科医となったような塩原教授の一眼投げやりに見える口元に、実は教育へのひたむきな情熱があふれ、皮膚科医としてのスキルを伝授したくて仕方のない衝動を読むことができる。さらに加えるならば、臨床写真のすばらしさにも目を見張るものがある。皮膚科医にとって良質の臨床写真を撮影することはもう1つの必須の技量であるが、本書に並べられた臨床写真はその1枚1枚が読者に「この発疹を診断して欲しい」という無言の訴求を熱く語りかけており、『Visual Dermatology』の学研メディカル秀潤社ならではの精緻なカラー印刷と相俟って、至上の皮膚科アトラスとして完成している。臨床写真の撮影技法でも学ぶべきことが多く、的確で明快な解説とともに各執筆者に敬意を表したい。

● B5判 頁208 2010年
定価8,400円
(税5%込)
[ISBN 978-4-7809-0814-5]
学研メディカル秀潤社